

母ちゃんの背伸び

北海道女性農業者倶楽部(マンマのネットワーク)

事務局長 片山 寿美子

◆ はじめに

北海道内でも、女に何ができる、女のくせにと言われ続け、経済的にも、精神的にも抛り所がなく、自分を見失いそうになつた農村の女性たちが、このままで終わりたいくないと自分の生き方を考え直し、経済的な自立と主体確立のための手段として起業活動を始めてすでに三十数年が経ちました。この活動を通し、それなりの収入を手にし、経営的にも社会的にも自分のポジションを見つけ元気になつた母さんたちは、農場や家庭さらに地域の中で「元気づくり」の担い手として大きな役割を果たせるようになってきました。

女性たちが、自分にできる

起業を一步一步積み上げるように進めて築き上げた成果ですが、直売も、農家レストランも、農畜産物の加工製造販売も一定の成果を得たものの、将来的な経営の方向を見直したとき、今のままでは、经营理念が曖昧で商品力も弱く起業継続の戦略が立てられないと気づいた母さんたちが、思いを同じくする仲間と競い、学びあいたいと、産直やレストラン、教育体験ファーム、農畜産物の加工品販売などで起業化していた仲間と呼びかけ、平成一九年一月、北海道女性農業者倶楽部(マンマのネットワーク)を誕生させました。

その活動は、今年で五年目を迎え、組織も活動内容も何とか形が定まってきました。

片山 寿美子(かたやま すみこ)氏

昭和39年4月、北海道に入庁

生活改良普及員として農家の生活指導に従事。その後、北海道総括専門技術員として生活経営の専門家として生活改善全般および農村女性の自立に向けた企業化活動の強化等の生活改善分野で活躍。

定年退職後、北海道農業担い手育成センター(現(財)北海道農業開発公社担い手支援部)の就農コーディネーターを歴任。

現在、ボランティア活動の一環として、北の恵み愛食フェア実行連絡会事務局次長、北海道マリッジカウンセリングセンター相談役、全国女性・生活支援協会交流リポーター等に就任。

平成20年に北海道知事から「北海道らしい食づくり伝承名人」の認定を受け、多方面で積極的な活動を展開している。



起業化から事業化へと目標を変えた母さんたちは、自分の思いを確かめるかのように、課題を見つけては解決に向けたプロジェクトを立ち上げ、学び、語り、ひろげ、ひたすら突っ走った、あつという間の五年でした。活動を通して、現状の取組み内容を見直し事業化への戦略を具体的に考え、新たなスピニアップの種を播きはじめられるようになってきました。今年もまた、それぞれの新たな事業へ向けての本格的な活動が始まります。

現状のままでも十分なのに、何をいまさら背伸びして：言われたりしますが、マンマ達はひるむことなく、まだ背中も腰も曲げていられないと反論しています。

何事も嵐を呼ぶ女たちの

◆マンマの組織

チャレンジの様子を紹介します。

◆マンマの組織
会員数六八名(正会員二六人、賛助会員四二人)うち非農家会員二七人(四〇%)。

マンマの組織には、農業者のみならず札幌市周辺の非農家の女性たちが半数近く会員として参加しています。これが農業分野における一般的な女性の組織と異なるところです。

非農家会員の参加については、マンマネットを組織化する際の協議で、都市圏の非農家の主婦たちと食を通じた継続的な交流の場が必須であるとの認識を共有し、会員募集の範囲を都市圏へ広げ、公共施設などへ募集のチラシを置



九栗会長を囲む事務局メンバー

いたり、マスコミなどの取材のおりなどに会員募集を呼びかけた結果、安全で安心できる食について本音の情報を得たいと応募してきた人たちが会員として参加することになりました。

◆ マンマの活動資金

マンマネットの活動資金は原則的に会員からの年会費（正会員一万円、賛助会員費五千円）で運営していますが、近年、農林水産省人材育成課（女性起業活動支援）、北海道農業開発公社（北海道担い手育成センター）の「新規就農者等育成団体支援事業」などの交付金やノーステック財団等の事業支援を得て各種のプロジェクト活動を運営してい

ます。

◆ マンマの主な活動内容

マンマネットの活動にあたっては、時間的に余裕のない人が多いので、効率の良い活動を効果的に進める必要があり、年次ごと活動目標を決めたプロジェクト活動に取り組んでいます。

プロジェクトその1

食と農の交流プロジェクト

食べるもの、食べることを通して農業や農村の本当の姿を発信し、消費者との相互理解を深化させたいと願って取り組まれています。

非農家の会員が最も望んでいる活動でもあるので、食の安全と安心をテーマに、農村

地域へ出かけて自然環境を含め実際の農作物の生産のしくみを見て、聞いて、確かめるマンマ会員農場を対象とした「ファームツアー」と、美味しく食べることをテーマにしたマンマの「ご馳走様講座」がプロジェクトの中で実施されています。

ご馳走様講座やファームツアーなどを、一歩ずつ積み上げてきた結果、食と農の身近な交流が広がり、昨年度は札幌市の市民活動支援センターとの連携によって親子を対象としたかたちへと広がりました。

プロジェクトその2

マンマのキャリアアップ

本命であるマンマのキャリア



千歳市「花茶」の庭で



テーマ：食材、料理、笑顔

アアップのプロジェクトでは、「億万長者をめざそう」を目標にキャリアアアップセミナーを実施しています。

セミナーでは、起業を進める心構え、販路拡大と商品づくり、農業ならではの強みを生かしたビジネスチャンスのとらえ方等々、年次別の目標を決めて学んできました。最初は途方もない目標だった億万長者への道も、プロジェクトで考え、仲間たちと語り合いながら学んできた結果、途方もない夢を具体的な形に練り直し、それを家族らと自信を持って話し合うことができようになり、今では、決して夢ではなく、なつたと胸を張って言い切る母さんたちが増えています。



マンマの経営塾でビジネスプランの実践を学ぶ

◆ マンマの「大縁会」

プロジェクト活動の総合発表会でもあるマンマの大縁会は、母さんたちの熱い思いで満ち溢れ、回を重ねるごとに会員外の一般参加者の数が増え、参加した人の評判も高く、母さんたちのステップアップ

のエネルギーになってい

す。
マンマネットの活動が、着実に広がっている要因を考えてみますと、次のようなことが考えられます。

- ・活動の目的意識が共有されていること
- ・仲間の連携の輪が柔軟なこと
- ・参加をすれば何が自分にとってプラスになると体感できる（ためになる、楽しいなど）
- ・勇気や元気が湧く
- ・会員それぞれが何らかのカリスマ性をもっている
- ・幅広く頼りがいのある応援団に恵まれていること
- ・国内各地域に志を同じくする仲間がおり密接に連携できること



大緑会のワンショット



卓上に供されたアイテムの一部

◆ まとめ

マンマネットの活動は、農業・農村で生きる女性たちが、いつまでも愚痴や泣き言を言っていられない、自分の生き方を他人事でなく自分で決めたい、そのためには自分の人間力を磨く必要がある。でも、一人では行き詰まる、志を同じくする仲間と学び、アンテナを高くしてスキルアップをしようとして話し合い、組織化され動き出しました。

活動にあたっては、目的が共有化されているため、活動

に揺らぎがなく、目標に向かって着実に歩んでゆくといった姿勢がさまざまな活動に反映し、自分たちにとって有益な情報や技術を掘り起しそれをもとにしてステップアップしています。マンマ達はいいつも「組織は小さくとも私たちにとって中身の濃いものであればよい」と話し合っています。これがマンマの活動の究極のコンセプトになり、誰かのためでなく、自分のために一人一人が力をつけ、自分が始めた起業を発展させ農業経営の部門として事業化していけるように今年も思いっきり背伸びしてゆこうとマンマ達と話し合っていますので、この心意気と活動を暖かく見守って下さるようお願い致します。